



平成16年度廃棄物学会総会開催案内

廃棄物学会誌第 15 巻第 1 号にて告示のとおり、平成 16 年度廃棄物学会総会を下記により開催致します。会員各位の積極的なご参加をお願い致します。

1. 開催日時：平成 16 年 5 月 27 日(木)
午後 5 時 30 分より

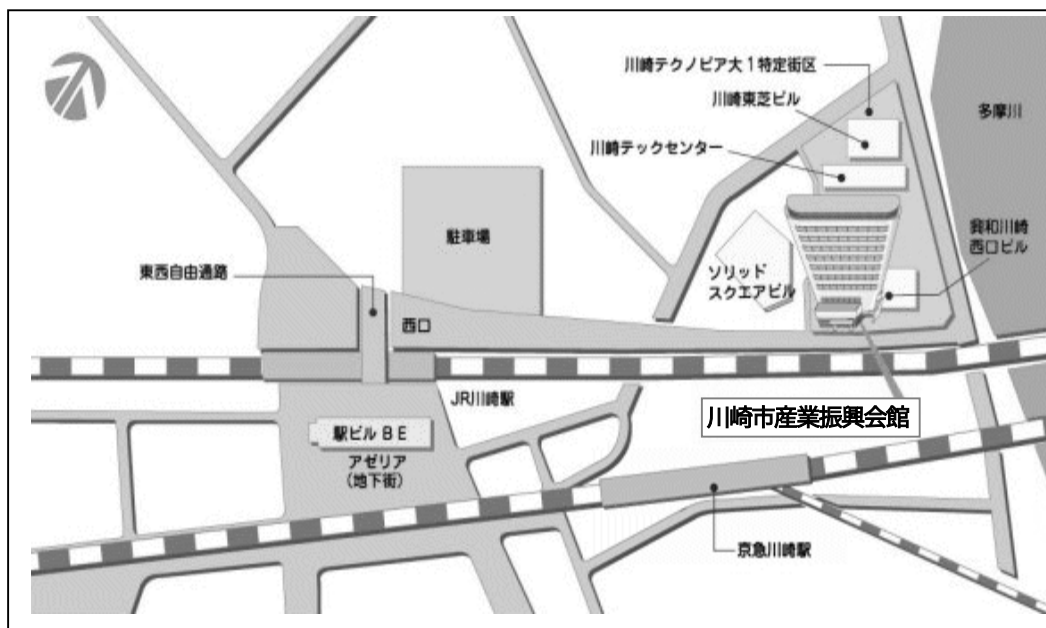
2. 開催場所：川崎市産業振興会館
(神奈川県川崎市)

総会は、学会の事業活動と運営について会員各位にご審議決定いただく最も重要な会議です。

今回は、平成 15 年度の事業報告と決算報告、及び平成 16 年度の事業計画(案)と予算(案)の定例議事のほか、先の選挙結果(次頁参照)に従って、会則第 13 条の規定にもとづく第 8 期の役員(理事・監事)の選出をお願いいたします。

なお、ご都合でどうしても参加できない正会員の方は総会資料に綴じ込んである委任状の提出をお願いいたします。(5 月 26 日必着)総会の成立要件として会則第 25 条の規定により、正会員現在数の 4 分の 1 の出席が必要とされておりますので、ご協力をお願いいたします。

総会に併せ、平成 15 年度廃棄物学会賞表彰式を行います。また、終了後には、懇親会を開催いたしますので、こちらにもご参加をお願い申し上げます。



平成16年度 廃棄物学会研究討論会開催案内

開催日時：平成 16 年 5 月 27 日(木)～28 日(金)

開催場所：川崎市産業振興会館(総会会場と同じ)

参加費：正会員、公益・賛助会員所属：3,000 円

学生会員、登録団体市民会員：1,000 円

非会員：5,000 円(当日、入会できます。)

※総会のみのお出席は無料です。

※懇親会への参加には別途費用が必要になります。

参加申込方法：当日、会場に備え付けの参加申込書に必要事項を記入し、該当する参加費を添えて申込み下さい。

詳細については学会ニュース 79 号同封の開催要領、学会誌第 15 巻第 2 号、または学会ホームページをご覧ください。

平成16年3月23日 選挙管理委員会

氏 名	所 属	得票数
田中 勝	岡山大学	1,125
酒井 伸一	(独)国立環境研究所	1,013
田中 信壽	北海道大学	1,010
古市 徹	北海道大学	930
松藤 康司	福岡大学	913
貴田 晶子	(独)国立環境研究所	817
井手 義弘	川崎重工工業(株)	790
青山 俊介	(株)エックス都市研究所	766
手島 肇	(株)タクマ	763
藤本 忠生	(株)クボタ	737
占部 武生	東京都	733
山本 和夫	東京大学	711

氏 名	所 属	得票数
和田 安彦	関西大学	710
澤地 實	大阪市	664
中村 一夫	京都市	655
八木 美雄	(財)日本環境整備教育センター	594
山本 攻	大阪市	530
押方 利郎	大成建設(株)	525
浮田 正夫	山口大学	492
松田 仁樹	名古屋大学	468
羽賀 育子	EPRとデポジット制度の実現を めざす全国ネットワーク	460
溝口 忠昭	東北大学	428
山本 耕平	(株)ダイナックス都市環境研究所	379

氏名	所属
奥村 忠彦	清水建設(株)
藤原 正弘	(財)水道技術研究センター

平成15年度特別セミナー

平成16年3月2日

「廃棄物・バイオマス分野における温室効果ガス削減関連事業の展望」開催報告

(企画委員会 川本克也 記)



▲ パネルディスカッションの様子

平成16年2月24日

「廃プラリサイクル工場見学会」開催報告

平成16年2月24日(火)、新日本製鐵(株)名古屋製鉄所において、「東海・北陸支部 廃プラリサイクル工場見学会」が開催された。

はじめに伊藤秀章支部長(名古屋大学)の挨拶があり、続いて名古屋製鐵所の櫻井規善氏によって、「環境への取り組み概要紹介」と題して、製鐵所の概要、製鐵所内の環境対策の現状と今後の方針について詳細な説明があった。次に、



▲ 見学会の様子

名古屋市環境局の松葉基司氏から「名古屋市における廃プラスチックの資源化について」と題して、名古屋市が取り組んでいるごみの

分別と資源化について定量的な説明がなされ、名古屋市の回収廃プラスチック 28,000t(平成 15 年度予定)の内、87%が今回見学する廃プラリサイクル設備に搬送されている事が説明された。講演後、名古屋製鐵所・祖山薫氏より廃プラリサイクル施設概要及び計画中のASR(自動車シュレッダーダスト)事業計画の紹介があった。今回見学の廃プラリサイクルの設備能力は8.4t/時、名古屋市のみならず近郊40以上の市町村から搬入されたプラスチックは、コークス炉へ投入する原料に1~2%添加され、コークス、コークスガス、油化物として再利用されている現状の説明があった。

その後、バスにて所内を移動し、廃プラリサイクル工場見学を行った。廃プラリサイクル施設は投入時のみ人手がかかるが、他は全自動のプラントとなっており、省力化されたスマートなレイアウトであった。また異物混入時の苦労話にも廃棄物の再資源化の難しさを実感した。

鉄鋼業界の廃棄物リサイクルに対する懐の深さを実感する講演会及び見学会となった。

(東海・北陸支部 吉田修一 記)

東海・北陸支部市民フォーラム

平成16年3月13日

「いま、改めてリサイクルを問い直す」開催報告

平成 16 年 3 月 13 日に愛知県産業貿易館にて、東海・北陸支部総会と併せて、「いま、改めてリサイクルを問い直す」と題した市民フォーラムが開催された。リサイクルが社会に浸透し始めてかなり経過し、市民生活にも切り離せないものとなっている。しかし、現在何気なく行っている我々のリサイクル行動が、ホントウにリサイクルなのであろうか？このことを考える場として設けたものである。

話題提供は、浅井直樹氏(中部リサイクル運動市民の会)、平林修氏(名古屋市環境局)、栗林信夫氏(名古屋プラスチック・ハンドリング㈱)、仲雅之氏(同和鋳業㈱)、そして藤江幸一氏(豊橋技術科学大学)の5人の方をお願いした。浅井氏は、市民の立場から、役人の役割は「市民自治の事務局」、専門家の役割は「助言」、決めるのは「市民」を提案された。平林氏は、名古屋市でのリサイクル活動の問題点を主にコスト面から解析し、リサイクル活動継続のための改善策を提唱された。栗林氏は、廃プラスチック事業を行っている企業の実態と将来課題を示された。仲氏は、家電・OA機器からの金属回収の現状を説明し、リサイクルが自己目的化にな

っていることを懸念された。藤江氏は、我が国全体の物質フローを示し、廃棄物削減、資源エネルギー消



▲ 市民フォーラムの様子

費削減、総合的環境負荷削減に効果がなければリサイクルを中止すべし、と提言された。

話題提供の後にパネル討論が行われた。会場からの発言が非常に多く貴重な討論会となった。参加者は土曜日にもかかわらず 50 名を越え、非常に有意義な催しであった。なお、その後支部総会と懇親会が開催された。

(東海・北陸支部 高見澤一裕 記)

企画委員会

技術セミナー「プラスチック類リサイクル技術の現状」参加者募集

開催日時：平成16年6月3日（木）12：15～17：00

開催場所：川崎エコタウン内 廃プラスチック類リサイクル施設
(川崎市川崎区扇町)

開催内容：下記の施設見学及び意見交換

- ・ 廃プラスチック原料化施設
- ・ ペットtoペットリサイクル施設

参加費：10,000 円（※当日受付時に申し受けます。）

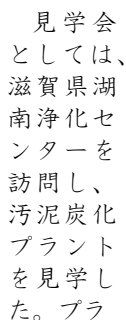
定員：先着 45 名(申込期限内でも定員に達し次第締切り)

申込期限：平成16年5月25日（火）

申込方法：①氏名、②勤務先、③住所、④連絡先(電話番号、FAX 番号)を明記し、廃棄物学会事務局「技術セミナー係」まで FAX にて申込み下さい

※詳細は学会ホームページに掲載しておりますのでご覧下さい。参加申込者には、はがきにてご連絡します。

(關西支部 大下和徹 記)



▲ セミナーの様子

(鈴木明郎 記)